

11月の学級づくり【中学校版】

11月は、3年生から2年生へのバトンタッチとなり、学校の顔となるべく、2年生の自覚と成長の機会が増えてきます。3年生は、自分たちの歩みをまとめ、自分の進路に向けて全力投球していく時です。また、読書の秋でもあり、図書館をお借りして短学活行うのも読書のきっかけになるのではないのでしょうか。

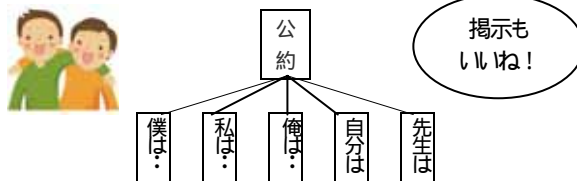


生徒会選挙活動でクラスの団結力 UP！

候補者をクラスみんなで応援しよう

クラス候補者の公約をみんなで支えよう

公約実現のために、僕は私は をします！



例) 候補者公約「学校中に響く歌声、明るいあいさつ」
級友の支え(僕はお昼休みの歌声リーダーをするよ！)
私は誰よりも元気なあいさつするわ！)

応援する形は様々ですが、選挙結果に左右されずに、必ずクラスの団結力がUPする！
“One for All, All for one” の精神ですね。

班づくりは、学級づくり

班づくりの目的を共有

班づくりで大切なことは、「キャンプで全員がよい思い出を残すため」「文化祭の学級展示をみんなで成功させるため」等、その目的を学級全員で共有しておくことです。学級全員が取り組み、班で活動する必要があり、一人一人がその成果を実感できるものがよいでしょう。

生徒が主体となってつくる

「自分たちが責任をもって決めた」と自信をもって言えるように、生徒が主体となって班をつくるようにしたいものです。時間がかかり、トラブルも起きやすい場面ですが、話し合って決めることが、学級のまとまりにつながります。

よさを広げる、振り返る

班で支え合う姿があれば、学級全体に広げましょう。また、時期を決め、班の活動や班の決め方を振り返る場と時間を位置付けましょう。

教師への信頼を育む教育相談

人間関係や進路などの悩みについて生徒から相談を受ける機会が増えてくる時期です。相談の際は、結論を急がず、生徒の教師への信頼を育むようにしましょう。

- 1 生徒の話を受容的な態度で聴く
生徒の話に対して、「なるほど」「そうだよね」と受容的な態度で聴くようにします。このことで、生徒が「先生が自分の話をよく聴いてくれた」という満足感が生まれます。
- 2 生徒の言葉を返していく
生徒が強く訴えたいと考えている言葉を選んで、「ということなんだね」のように生徒の言葉を返します。このことで、生徒の自問自答を促し、自己理解が深まっていきます。
- 3 今後の相談につなげる
相談内容によっては、結論を急がず、「このことについては、また話をしようね」などと、次の相談につなげます。このことで、「先生はこれからも一緒に考えてくれるんだ」という安心感が生まれます。

支援が必要な子どもの「つまずき」を支援するポイント

～整理整頓が苦手な生徒～

「どこに片付けるかを忘れてしまう生徒」には
種類や教科ごとに色シールをはり、色ごとに分けてみては

「必要と不要の区別が難しい生徒」には
授業の終わるたびに、クラス全体で机上を片付ける時間をとって、習慣にしてみても

「やり方の手順をうまくイメージできず、整理整頓のコツが分かりにくい生徒」には
整理整頓の見本となる写真や絵を提示してみても